

<全体分析>

試験時間	情報学部-自然	1科目で75分
	情報学部-コン・	
	医・理・農学部	2科目で150分

解答形式

記述・論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴

昨年同様4題の出題であった。知識問題の割合が減少し、考察問題の割合が増加したため、昨年に比べて難化した。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

「生物」のタンパク質、遺伝子の分野からの出題が目立った。また、読み取る図表の量はこれまでに比べて増加した。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述 選択 計算	転写・翻訳	生物	PTR 比(タンパク質分子数/mRNA 分子数)の大小の解釈と植物の生理現象との関係を考察するのが難しい。	難
II	記述 論述 選択 計算	遺伝・ 遺伝子	生物	チャボをテーマに遺伝とバイオテクノロジーの内容が問われた。問題文が長く、実験データも多いので設問にしたがって内容を順に把握する必要がある。	やや難
III	記述 論述 選択	受容体	生物	動物のホルモンや神経伝達物質と受容体、アブシシン酸受容体をテーマにした内容であった。アブシシン酸受容体には複数あり、受容体の種類によりはたらきや結合の強さが違うことを問題文や実験データから読み取る。	やや難
IV	記述 論述 選択	免疫	生物基礎 生物	自然免疫を中心に、NK 細胞による抗体を介したがん細胞の殺傷のメカニズムなどをテーマにした内容であった。これまで出題が続いていた実験を計画する問題が空所補充形式で出題された。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

さまざまな形式で総合的に出題される。知識問題を確実に得点できるよう、まずは教科書の内容を正確に習得することが大切である。そのうえで、問題集などを活用し、実験・考察問題の演習を十分に行っておこう。